

製品名: ロドプシン (リン酸化 Ser334) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05370**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	RHO
別名	RHO; OPN2; Rhodopsin; Opsin-2
遺伝子 ID	6010.0
SwissProt ID	P08100
免疫原	抗血清は、Ser334 のリン酸化部位周辺のヒトロドプシン由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 299-348

背景

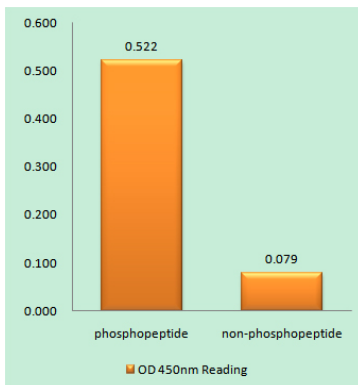
網膜色素変性症は、西洋社会における主要な失明原因である進行性の遺伝性疾患です。常染色体優性遺伝、常染色体劣性遺伝、また

はX連鎖劣性遺伝のいずれかの遺伝形式をとります。全症例の約25%を占める常染色体優性遺伝型では、約30%の家系において、桿体光受容体特異的タンパク質であるロドプシンをコードする遺伝子に変異が認められます。ロドプシンは膜貫通型タンパク質であり、光励起されると視覚情報伝達カスケードを開始します。この遺伝子の欠陥は、先天性夜盲症の原因の一つでもあります。[RefSeq 提供、2008年7月],疾患: RHOの欠陥は、常染色体劣性網膜色素変性症 (ARRP) [MIM:268000]の原因です。疾患: RHOの欠陥は、先天性定常夜盲症常染色体優性1型 (CSNBAD1) [MIM:610445]の原因です。ロドプシン関連先天性定常夜盲症としても知られています。先天性定常夜盲症は、夜間視力障害を特徴とする非進行性網膜疾患です。疾患: RHOの欠陥は、網膜色素変性症4型 (RP4) [MIM:180380]の原因です。RPは網膜光受容細胞の変性を引き起こします。患者は通常、夜間視力障害と中周辺視野欠損を呈します。病状が進行するにつれて、遠方周辺視野が失われ、最終的には中心視力も失われます。RP4 遺伝子は常染色体優性遺伝です。機能: 低光強度下での像形成に必要な光受容体。出生後の光受容体細胞の生存に必要。11-シスからオールトランスレチナルへの光誘起異性化は、構造変化を引き起こし、Gタンパク質の活性化とオールトランスレチナルの放出につながります。オンライン情報: Retina International's Scientific Newsletter,オンライン情報: ロドプシンの項目,オンライン情報: ロドプシン変異のページ,PTM: C末端領域に存在するセリンおよびスレオニン残基の一部またはすべてがリン酸化されています。類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。オブシンサブファミリー。組織特異性: 薄暗い光の中での視覚を媒介する桿体状の光受容体細胞。

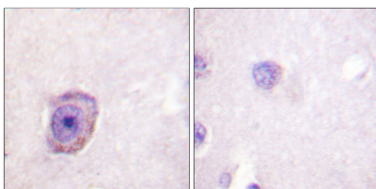
研究分野

微小管ダイナミクスの制御; アクチンダイナミクスの制御; SAPK_JNK; B細胞抗原

画像データ



ロドプシン (リン酸化 Ser334) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定法 (リン酸化 ELISA)



ロドプシン (リン酸化 Ser334) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。